



木下 美也子 議員
(無会派)



一般質問

■地域公共交通の今後について

災害後のまちの姿を踏まえた見直しの検討が必要！

質 今後、整備される復興公営住宅を踏まえ、新たな交通ニーズに対応するため、デマンド交通やコミュニティバスの仕組みそのものを再検討する時期に来ていると考える。人口減少や高齢化の進行に伴い、公共交通の維持は一層困難になっているが、市としては、地域公共交通計画に基づき中長期なビジョンや財政負担の見直しについてどのように考えているのか伺う。

答 市では現在、公共交通オンデマンド交通導入可能性検討事業を進め、コミュニティバスや路線バスの利用状況や事業者の意向を調査し、オンデマンド交通に適した路線の取りまとめをしているところである。現段階では郊外エリアが導入に適していると見込んでいる。市内を走る「まりん号」については、利用者数が多く、デマンド交通に移行する場合の車両の確保やコストの観点から、デマンド交通には適していないと示されている。今後、調査結果を踏まえ、交通事業者と協議し、令和8年9月末までにダイヤやルートの検討案を示す予定である。

しかしながら、公共交通を維持していくためには、利用者と事業者の理解と協力が不可欠である。そのうえで、市民の移動手段の確保は、市として重要な施策であり、一定の公的負担を投じる必要があると考えている。



江曾 ゆかり 議員
(無会派)



一般質問

■防災・減災について

ペット同行避難の制度整備を！

質 令和6年1月1日能登半島地震が発生した際に、ペット同行避難者が詰めかけた避難所では、受入れ態勢が整っていないなかったため、場当たり的な対応とならざるを得ず混乱が生じたことは否めない。現在も明確なルールや体制整備が市民の目に見える形になっていない現状である。災害時にペットを理由として避難をためらうことがないよう、一刻も早く課題解決を進めるべきと考えるが、市の見解を伺う。

答 能登半島地震という最大規模の災害を経験し、避難者の様々なニーズに対応しなければならぬという中、ペットは家族の一員であるということを含めて、同行避難のニーズが高かったということとは承知している。
しかしながら、避難者の中には、動物が苦手な方やアレルギー症状のある方もいることから、結果として、今日に至るまで明確な方針が出せなかったところである。

今後は、避難者の生活を守ることを優先としながらも、ペットの同行避難の在り方について、獣医師会や動物病院と協議を重ね、国の指針も踏まえながら、対応方針をしっかりと定めていきたいと考えている。